

## 物理学賞で脚光 青色LED 実は目に悪い!?

ノーベル物理学賞を受賞した赤崎勇氏(85)ら3人に世界中が「拍手喝采を送っている」。「20世紀中の実現は困難」といわれていた青色LEDは、もはや人々の生活に欠かせない



長時間見続けるのは危険

ものになっている。います。私たちは研究た。人体に及ぼす影響はハッキリと分かっています。青色LEDで、そのメカニズムをいまいませんが、眼精疲労の光は、人間の目に解明しました。波長の短い青い光は網膜の中や急性網膜障害につながるダメージを与えるに侵入しやすい。その可能性がある。パ・薬効解析学研究室の結果、細胞障害の原因原英彰教授はこう言になる活性酸素が発生しやすくなるのです。LEDのブルーライト逆、波長の長い緑色の光では活性酸素の増加は見られませんです。悪影響が出る恐れがあります」

会社でパソコン、移動中はスマホとにらめっこ——こんな光景は今や当たり前になっているが、気をつけないと、いずれ障害が出る恐れがあるのだ。原教授は「ブルーライトを遮断するメガネや、パソコンの遮光シートなどで対策をするべき」と警鐘を鳴らす。知っておいた方がよさうだ。